

## 作品の表し方の良さや面白さを感じ取ろう

子どもたちは班の友だちと「ねん土ランド」を協力して作ります。ねん土を使った表し方を工夫しながら、制作の様子をiPadのタイムラプス機能を使って記録します。振り返りの場面では撮影した動画を見ながら、みんなに見てほしい場面やその説明を班で考えます。その後、自分たちの作品を紹介したり、他の班の作品を見に行ったりします。



①授業のはじめ。作品づくりについて「海ランド」「動物ランド」「未来ランド」などの例を先生がお話しました。子どもたちは、制作に向けて想像を膨らませています。



②どんな「ねん土ランド」にしていきたいかを班で話し合います。各自の考えが尊重されるようにしながら、構想を書き出していきます。



③一人ずつ「ねん土ランド」にあった建物を作ります。「どんなことを表せそうか？」イメージを膨らましていきます。テーマに沿った制作が進んでいきます。



④iPadのタイムラプス機能を使って班で作品を作る様子を撮影します。共同して作る楽しさを感じられるように、話し合いながら制作を進めていきます。



⑤タイムラプス動画を見ながら、みんなに見てほしい場面やその説明を班で考えます。みんなで作った作品が増えていく場面に注目し、表現したい世界が広がっていく様子に面白さを感じていました。



⑥班の作品紹介する人と他の班の作品を見に行くに分かれて鑑賞し合います。作品の変化や、友だちと協力したところ、表現した世界の面白さについて振り返っていました。

美篤小学校 3年 廣田 克也 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました

## タイムラプス機能で自分たちの制作の過程を振り返る

「伊那市校長教頭会 学力向上検討委員会」の先生方は、授業づくり研究を積極的に推進しています。今回は、美篤小学校の廣田克也先生に図工の授業を公開していただき学び合いました。



### 参加された委員の先生方のご意見を紹介します

- ・2時間続きの図工科の授業。ふだんは一人で行う粘土での制作が本時はグループで。3人で存分に粘土での制作を楽しみました。作ることを楽しんだ3人は、最終的にすべて壊したわけでした。1さんが「動画があるじゃん！」と言葉が発せましたが、3人で動画を見ながら（この2時間を振り返りながら）、Aさんは「これは1つの映画だ！おもしろい！」と満面の笑顔。1さんも3さんも笑顔でした。タイムラプスで記録することによって制作した過程・ストーリーまでもが残るのはやっぱり素晴らしいと思いました。
- ・3人は、iPadをのぞき込み、そこに映し出される映像を見ながら、映し出される映像を意識しながら作っていました。タイムラプスを活用したおかげで、このランドの視点が定まっていた。
- ・タイムラプスについて、こんな活用があるのかと驚きました。何もなかったところから、少しずつ出来上がっていく様子は、〇〇ランドを作り上げた子どもたちが、制作過程を振り返るのにたいへん面白く感じます。代表のグループを大型テレビで映し出し、全体で視聴することで、各グループの表し方の良さを知ったり、自グループの良さや過程を振り返るのに有効だったかもしれないと感じました。
- ・個の制作だけではなく、グループのテーマがあるところが魅力的。廣田先生が「友との関わり」を大事にした授業とおっしゃっていたが、お互いに認め合って、お互いに良さを指摘したり、真似たり、共同的な活動が意欲的に進んでおり、楽しかった。自由な大きさと、自由な形ができる「粘土」の良さを十分に生かしていた。私が見ていた班では、「都会」のイメージよりもより身近な具体的に目にする「自然」の方が、表現しやすかったのか

- もしれない。一旦完成しても、次、次、次と新しいものを積み上げていた。子どもたちの発想に天晴。
- ・最初、子どもたちの作品は平面的でした。先生が子どもたちの真ん中にビルを置いたことによって子どもたちのストーリーが動き始めました。ビルの下にコンビニを作る、上に大きなサメを置く、個々のボードをアーチで繋ぎ、そこに亀が向かっていく、アーチの横に岩を置いて人魚が座って起き上がってきた。子どもたちは会話をしながらストーリーを繋ぎ立体的な作品が作られていきました。子どもたちはタイムラプスを見て「オー」と歓声をあげました。最初平面的だった作品がどんどん立体的になっていく様子がはっきりとわかりました。授業の中でこの「オー」を価値づけあげると良いと思いました。
- ・遅れて入室しました。最初は目が点になりそうなくらい、好き勝手制作しているように見える姿に驚きましたが、グループの仲間が認め、声をかけ、押し込まない会話が続いていました。学級が柔らかく、お互いに温かい。包み込んでいる人間関係ができていました。廣田先生の学級づくりに感動しました。
- ・制作の中盤から、S君は、しきりにタイムラプスの画面をのぞき込み、作品がどのように録画されているかを確認していました。班の中で、友達のを汲みながら個々の思いを上手に作品全体に反映されるようにイメージの確認をしていたS君にとっては、時々作品の全体像を確認することが、イメージの共有に生かされていたと感じます。
- ・自分が制作している場所から見える作品とタイムラプスから見える作品は、意図せず違う角度から作品全体を見ることがなったので、イメージが膨らむことに寄与したのではないかと思います。